



横浜農と緑の会

はま農楽だより

No. 43

(H29 年 3月発行)

会員の皆様、お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は、“はま農楽”へのご支援を賜り有難うございます。今回の「はま農楽だより」は、平成 28 年度を振り返り活動報告をして頂きました。

平成 28 年度 “はま農楽” の活動を振り返って

今年度は代表になる予定でした方が急に亡くなられて、代表・副代表不在で“はま農楽”を運営してきました。実際にはそれぞれの運営委員が各月交代で代表の役割を担い、運営委員全体でのグループ運営という形で行動してきました。日常の活動は各リーダーが責任を持って支障なく実行されてきたと思います。イベントの挨拶など、例年代表が行ってきたことも、各運営委員が代行して運営してきました。

今後の“はま農楽”の運営に関しては、組織・イベント及びフォローアップ研修の見直しをしていきます。ただし運営委員の絶対数は不足しています。新入会員にも呼びかけますが、「はま農楽通信」でもお知らせしています通り、既存会員の参加を、お待ちしております。

フォローアップ研修の変更につきましては、環境活動支援センターの担当者と相談しながら、変更していきたいと考えています。

さて、今年度もスローガンを「トリプル E でつなぐ “はま農楽”」として活動してまいりました。

援農・緑化ボランティア活動は、「はま農楽通信」でお知らせしていますが、各農家からの援農希望が増えてきています。これまでの会員の援農実績が認められている現れだと考えています。皆様のご協力に感謝致します。

運営委員一同

援農・緑化ボランティア 10ヶ条

1. 気持ちの良い挨拶をしましょう。(お早うございます。こんにちは。お先に失礼します。・・・)
2. 作業のしやすい服装でしましょう。(ケガ、作業効率を考えて・・・)
3. 私語はつつしみ だらだらした作業は止めましょう。
4. 援農先の園主の考えで作業しましょう。(自己流、マイペースは避けましょう。)
5. 他の農家の情報は、質問された範囲で最小限にとどめましょう。
6. 個人情報・農家情報の扱いに最大限の配慮をしましょう。
7. 持参した弁当・飲み物のゴミは、自宅に持ち帰りましょう。
8. 使用した道具は、きれいにできちんと元のところに戻しましょう。
9. 作業時間を守りましょう。
10. 休みの予定は、なるべく早く連絡しましょう。

はま農楽 イベントの活動報告

秋の視察研修会

研修場所：A カゴメ株式会社 茨城工場
(小美玉市)

B 食と農の科学館 (つくば市)

開催日：平成28年9月21日(水曜日)

はま農楽会員総勢47名、研修会日和のなか
首都高・常磐道三郷経由で現地に向かいました。



A カゴメ株式会社 茨城工場

カゴメ茨城工場は敷地面積76000㎡従業員220名ほど、生産品は業務用飲料・ソースとホームパック・ラブレやチルドペットなどです。

今回の研修はカゴメが製造する商品の原料となる品種の開発・生産技術・出荷そして地球環境までの一連の流れを映像で見ながら説明を受け2組に分かれて見学が始まりました。

工場見学通路には所々にその工程にまつわる説明やクイズなどあり解りやすくなっていました。またパネルも多数かけられている中で見学中も質問が多数ありましたが、なかでも原料となる野菜の栽培についての回答が驚きをもって伝わりました。

それはカゴメが世界中から野菜のタネを集めてそれぞれの商品に合った品種を開発、それをカゴメでは「畑は第一の工場」という考えのもと農家の方々と一緒に原料となる野菜を作っています、その「第一の工場」いわゆる畑が世界に広く分布していることで、当然中国もその中に含まれていました。

安全・安心の観点からの質問に対してカゴメの基準があり現地指導と管理、および国内搬入後も検査合格品のみ使用とのことでした。

また地球へのやさしさ、資源を大切に・ゴミを出さない・エネルギーの効率化など取り組んでいました。

工場見学後は野菜ジュースなどの試飲やカゴメのボランティア活動「みちのく未来基金」(震災遺児に進学の夢を)に賛同するはま農楽会員が業務用パックのソースを購入していました。

帰りがけには集合写真とカゴメ製品の詰め合わせをいただき、従業員の見送りまで受けながら工場を後にしました。

B 食と農の科学館

この科学館では農業・林業・水産業そして食料、環境などについて研究をしています。それぞれの研究は ①食料安定供給研究 ②農業付加価値化研究 ③シーズ創出研究 ④地球規模課題対策研究 ⑤様々な農林水産研究 ⑥震災復興研究の成果について大型ディスプレイで分かりやすい映像で紹介しています。

日本の農林水産業の持続的な発展を支えている研究成果を紹介するエリアと農業技術発達資料を展示・紹介するエリアがあります。

まずお米について、ひとくちに「お米」といっても地域ごとの”気候や特性”に合ったもの、業務用や加工用など”用途”に合ったもの、そしてリゾットに向いているなど”調理法”に合ったものまで・・・驚くほど多種多様な品種があります。最近は「飼料用品種」牛や豚などの家畜のエサになるイネの開発や地球温暖化による玄米品質低下を防ぐため高温登熟耐性品種の育成・普及が進められています。

次に日本古来の畑作や稲作そして養蚕について、昔の人々はどんな風に道具や技術を開発・改良して今日のように安定した収量を得られるようになったのか、その軌跡をパネルと実際に使用されていたという貴重な道具や農機具の数々が展示され、お米だけではなく稲わらが大地に戻るまで有効に使われていたことも紹介されていました。

また作物に悪影響を及ぼす病虫害のほか、カイコやミツバチのように家畜化されている益虫類など、作物と虫との関係がいかに密接であるかの紹介と顕微鏡を使った昆虫の微細構造を観察できるようになっていました。

農業と農薬についても人の身体や環境に悪い影響を及ぼしていることもあり、将来の世代もずっと農業を続けていくため農薬とほかの方法をうまく組み合わせる「病虫害や雑草の総合的管理技術」(IPM) 注目されています。例えば農薬と組み合わせて使用する「熱水消毒ネット」「天敵微生物」「抵抗性のある品種」などが紹介されていました。



農と緑のふれあい祭り

平成28年11月3日（木）に環境活動支援センターで行われた「農と緑のふれあい祭り」に“はま農楽”51名のご協力で、例年通り参加しました。横浜市環境活動支援センターの集計で来場者数13000人でした。

はま農楽ブースは子ども野菜収穫体験（長ねぎ・落花生）とハーブティー・リース販売・リース作り、そして野遊び体験（紙鉄砲・花飾り・どんぐり細工）またセンターの野菜収穫販売の手伝いもありました。



例年のこと、野菜収穫体験は根強い人気があり大勢の参加者が順番を待ち、長ねぎと落花生を親子で掘り上げから収穫までの体験で子ども達の歓声が湧き上がっていました。若い親御さんは土の中から出てくる落花生を見て驚いている様子、「落花生」の字を話すことで理解しているようです。またハーブガーデンでのハーブティー・リースキット・リース完成品など毎年好評で完売しました。

野遊び体験は出店場所が「本館前」で人通りが大勢なので、紙鉄砲・どんぐり細工は昨年同様ですが、お客様を分散するためと女性向けにと麦藁細工の代わりに花飾りを出店しました。この花飾りが麦藁細工と違い幼稚園生でも楽しめることで順番待ちするほど好評でした。事前講習会などの実施効果を期待して今後ともご協力よろしくお願い致します。

収穫感謝祭

平成28年12月7日（水）に環境活動支援センター実習展示場で行われた「収穫感謝祭」は会員40名、センター職員3名で盛大に行われました。

今回の収穫感謝祭実施内容は、はま農楽運営の見直しと運営委員の負担軽減も含めて大幅に変更いたしました。

まず収穫物を使ったサラダや煮物など作らず、また昼食用のおにぎりなどの購入はしないので会費徴収はしませんでした、技術の伝承のための正月飾り・ミニ門松作りなどは材料の入手が困難なため廃止しました。



このようなことから今までは昼を挟んで午後までやっていましたが午前中で終了するようにしました。今回のテーマは農家支援のノウハウを学ぶため、会員3名にそれぞれの援農情報を伝えてもらい、会員へのアドバイスや援農に行けない方々の不安解消に、また情報を共有することで人手不足の解消になればと講演を依頼しました。

質疑応答のあと、お持ち帰りの品々をくじ引きで決めました、その品々は環境活動支援センターご提供のシクラメンの鉢植えや大きな白菜、会員からは手作りの小物をご提供いただき、会で用意した収穫野菜など沢山の賞品を用意することができました。

担当 関口

はま農楽 各班からの活動報告

＜花班＞活動報告

花班の H28 年フォローアップ研修として水曜日の午前中に、延べ 35 回ほどの活動をしてきました。主な活動場所としては、センター内の花壇・圃場・ハーブガーデンです。まず花壇においては、春夏秋冬に応じて種から育てたビオラ、ナデシコ、マリーゴールド、ジニアなどの花々の成長を楽しみながらの活動ができました。圃場ではラグラス、スターチス、千日紅、貝細工、綿などをリース



用の花材として育て、秋のふれあい祭りに多くの市民の皆さまにリース作りの体験を楽しんでいただきました。そのほかにもトウガラシや月桂樹で作成したキッチンリースやドライフラワーの花束の販売や、圃場での花摘みを行いました。ハーブガーデンでは主に除草等の維持管理のお手伝いや、収穫されたラベンダーをスティックに加工してふれあい祭りに出品したり、ハーブ

ティー提供したりしました。

今年は天候に概ね恵まれて、花々の成長も良く、いろいろな知識や技術を楽しみながら、充実した活動となったと年と思います。花班はこの一年延べ 190 名の参加者となりました。

またふれあい祭りは皆さんの力で盛り上げることができました。会員のみなさまに感謝申し上げます。ご興味のある方はぜひ参加してみてください。

花班 北村記

＜野菜班＞活動報告

野菜班の H28 年度の FU 研修は、1 月までに祝祭日や夏・冬休み等を除き延べ 31 回ほどの活動をしてきました。活動日は、雨で室内作業をしたのが 1 日だけでほとんど圃場での作業ができ、参加した会員数は延べ 405 人(各回の平均 13.1

人)でした。昨年に比べ少し減少しており、ベテラン会員に頼るところが多い状況で、新会員の方の参加の拡大・勧誘が課題となっています。栽培した野菜は、タマネギ・ジャガイモ・長ネギ・ラッカセイ・ブロッコリーなど 12 種類で、天候にも恵まれ、野菜の生育はほぼ順調でした。タマネギ・ジャガイモ・レタス・ブロッコリーの一般販売には、50～100 名の多くのお客さんで賑わい、皆さんに大変喜んでいただきました。ただ、ニンジンだけが生育不良で販売に至ら



ず、反省点を残しました。11 月のふれあい祭では、多数の会員ボランティアの協力を得て、長ネギ・ラッカセイの「こども収穫体験」を実施しました。午前、午後の部に分けて長ネギ・ラッカセイ各 130 組の親子連れを迎え入れ、子供たちにはとても充実した楽

しい収穫を体験してもらいました。野菜班の情報発信としては、各月のF U研修報告を「はま農楽」ホームページの投稿ブログに掲載しました。各種の作物の事前準備から施肥を含む土づくり・播種・定植・追肥・中耕・土寄せ等の管理の経過も紹介し、皆さんの栽培の参考になればと願っております。また、こうした活動報告が、皆さんの研修参加へのきっかけになれば誠に幸いです。本年は会員の皆さんの協力で活動が盛況であったことに感謝申し上げます。来年度もF U 研修を通じて、援農や農と緑を守る活動の技術力アップを図りたいと思います。多くの皆様のご参加とご協力をお待ちしています。

野菜班 井戸記

＜果樹・植木班＞活動報告

平成28年度果樹・植木班のFU研修には、年間延べ195名の参加がありました。

参加状況は、荒井農園にて柿の摘蕾・剪定、梅の夏季・冬季剪定【参加65名】

北村農園にて梅の夏季・冬季剪定、【参加27名】
支援センターにて梨の摘果、ぶどうの摘粒、梅の収穫手伝い、【参加38名】

あさひブルーベリーの森にてブルーベリーの剪定2回【参加31名】

社会福祉法人グリーンにて柿の冬季剪定【参加11名】

鳥山園にて梨の剪定及び誘引【参加23名】

荒井農園、北村農園、社会福祉法人グリーンの各研修は、会員の新藤さんに講師をお願いし、果樹管理のポイント等指導していただきました。

ブルーベリー園では園主さんから樹の特性、剪定方法の説明を受け、作業を行いました。

支援センターでは梨の摘果、ぶどうの摘粒、梅の収穫をセンター職員の鈴木さんの指導のもと作業を行いました。

鳥山園では梨の剪定及び誘引を、センター職員の鈴木さんの指導のもと作業を行いました。梨の剪定作業は今回が初めての研修だったので、経験者を含めて多くの会員が参加しました。

FU研修を通じて、会員相互の情報交換や交流の場となり、援農に参加しやすくなると思いますので、FU研修に参加して情報収集と会員間の結びつきが深まるように、皆様の積極的な参加とご協力をお願い致します。



果樹・植木班 千川(記)

＜二次加工班＞活動報告

* H28年度の「二次加工」班の活動を質問形式で報告します

Q1:「二次加工」って何をするの？

- 圃場や会員の収穫物を材料とし、料理して二次製品を作ります
- 項目毎に担当を決め、得意分野の能力を発揮してもらっています



Q2:何を作りましたか？ その評価は？

- 小梅の収穫・カリカリ梅作り——美味しくできました
- 梅の収穫・梅ジュース作り——好評で収穫感謝祭に提供しました
- ルバームジャム作り——試食し好評でした
- 梨のバーベキューソース作り——試食で大好評でした
- 栗の渋皮煮作り——好評でした
- こんにゃく芋の植え付け～収穫・こんにゃく作り——大好評でした
- 大豆の種蒔き～収穫・味噌作り——大豆は収穫が苦労しましたが作れました
- 小麦の種蒔き～収穫・クッキー作り——新入会員募集案内に提供しました

Q3:どんな楽しいことがあるのですか？

- 栽培し収穫したものから加工品を楽しみながら作ります
- 加工した製品を試食し評価します(一部は持ち帰れます)
- 料理のレパートリーが拡大します
- 料理しながらの井戸端会議が有意義です
- 失敗も時々ありますが、これも有意義な経験となります

Q4:費用は？

- 原則実費のみで安価です

Q5:役割が大変では？ 他の班にも参加したいが？

- 開催は1～2回／月程度であり、大変ではありません
- 又開催される二次加工の内容により、自由に他の班に参加できます

Q6:調理器具は？

- 培養室に全部の備品が揃っており、持ち込む必要はありません
- 家庭では難しい料理も可能です
- 冷蔵庫、ガスレンジ等もあり、大量料理も可能です

Q7:参加者は殆どが女性では？

- 大部分は女性ですが、男性の参加者もおられます 因みに小生(リーダー)は男性です

二次加工班リーダー 浅野康夫

“横浜の農と緑を知るツアー” 報告

横浜の農を多様なアングルから観ることで刺激を受け、様々な発想を見聞することで“農”を深める、横浜の農と緑を知るツアー。今年度も2回実施しました。

1. 横浜の農と緑を知るツアー こども植物園編

日頃、環境活動支援センターには通っているけれども、お隣の「こども植物園」には行っていないということで、見学ツアーを企画しました。「こども植物園」は木原生物学研究所の跡地でもあり、柿の種類が100種近くあるなど、様々なジャンルの植物がありますので、職員の方にガイドをお願いしました。

◎ 実施日時：平成28年5月25日（水）12～16時くらい

◎ 主なコース：こども植物園（バラ園・くだもの園・薬草園・ニュートンのリ
ンゴの木・メンデルのブドウなど）

まずは支援センターでランチをしながら、会員同士の自己紹介と交流を行い、その後、お隣のこども植物園に移動しました。さすが元研究所だけあって、様々な種類の植物があって説明を聞きながら、気持ちよく園内を散策しました。特にくだもの園には柿が100種類ほどあって、様々な質問が飛び交い、色々な話題に花が咲きました。バラ園も素晴らしく、「はまみらい」を初め、数多くの種類のバラが咲いていました。

2. 横浜の農と緑を知るツアー 下飯田編

～小麦畑やいちご畑を訪ねながら、鎌倉道をのんびり歩こう～

◎ 実施日時：平成28年12月9日（金）9:45～15:00くらい

◎ 主なコース：地下鉄下飯田駅→ファールニエンテ（小麦栽培と障害者施設）

見学→レストランでピザの昼食→ゆめが丘農園（いちご）→直売所が

点在する鎌倉道散策

① ファールニエンテ

下飯田駅からほど近い場所にあるファールニエンテ。小麦を育てるところから始まり、製粉工程にこだわり、ピザやパスタ、パンが一つ一つ丁寧に作られていました。

そこに障害者の方たちも加わり、農作業をしたり、製造や加工をしたり、ベテランのピザ職人も障害者の方でした。

生産から販売まで「農」を6次産業として捉え、しかも障害者福祉を加えて実践している姿に、とても感心しました。

ファールニエンテのレストランで、ピザのランチを美味しくいただきながら、みんなで談笑し、交流を深めました。



② ゆめが丘農園(いちご観光農園)

美味しいイチゴを園主さんが自信をもって作れるようになり、温度設定や水・液肥の循環から、温室の管理全般まで、いちごの栽培について細かく解説していただきました。今まさにノリにノッている農家さん、熱弁をふるっていただき、あっという間に時間が過ぎていきました。こちらも下飯田駅から徒歩圏内の「いちご観光農園」、1月から5月まで営業しているそうです。



③ 鎌倉道散策&直売所めぐり

見学を終わって、下飯田の田園風景を眺めながら鎌倉道を散策。途中、直売所によって野菜を買いながら、農家さんとのおしゃべりも楽しみました。

☆12 月に入って、夕方になると少し寒かったけれど、ホットな方々と出会え、また、ランチタイムには会員同士の交流も深めるツアーになりました。

★参加者の声★ 大変楽しいツアーでした。ファールニエンテさんの説明もよく、お昼のピザがおいしい理由も納得です。又いちご園、直売所めぐりもよかったです。ありがとうございました。

担当 西野・大澤記

【援農コーディネーター事業について】

横浜市と横浜農と緑の会（はま農楽）は、「横浜みどりアップ計画」に基づく、「援農コーディネーター支援事業」を、連携して実施しています。実施協定書を平成 26 年 4 月 1 日に締結し、事業期間は平成 31 年 3 月 31 日までの 5 ヶ年です。＜実施協定書（抜粋）は、第 42 号参照＞

農業従事者の高齢化や担い手不足など、農業を取り巻く厳しい状況により農地が減少しているという課題を認識し、行政と市民がともに「援農」をはじめとした農地保全活動に取り組んでいくという目的を共有して、このコーディネーター事業は行われています。

「通信」の発行などを通して、農家と援農者の情報収集と連絡調整を行うなど、人手不足の農家と援農ボランティアができる市民を結びつけ、農地の保全を図る、「はま農楽」と横浜市が協働で実施している事業です。取り組み自体は、平成 23 年度から開始しています。

環境活動支援センターから

はま農楽の皆様、この1年、大変ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。環境活動支援センターでの研修やイベント、会議などに元気に生き生きと参加して活動する皆様の姿から大いに元気と勇気を頂きました。これからも、皆様が健康に留意されて、会員相互の絆も大事にしながら、援農や緑化ボランティアなどで元気に活躍されるようお願いいたします。引き続き、支援センターの職員も皆でしっかりと支援してまいります。

環境活動支援センター長 境田康弘



今年度も、日々様々な活動に取り組んでいただき、ありがとうございました。

今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

担当係長 朝倉友佳 担当 松木綾子

全国都市緑化よこはまフェア 開催！

花と緑の祭典「第33回全国都市緑化よこはまフェア」がいよいよ3月25日（土）から開催します。

山下公園、日本大通りなどの都心臨海部を中心とした「みなとガーデン」と、よこはま動物園ズーラシアに隣接する郊外部の「里山ガーデン」の2つをメイン会場とし、テーマフラワーの「サクラ」「チューリップ」「バラ」をはじめとした100万本の花と緑で横浜の街を美しく彩ります。

6月4日（日）までの開催ですので、この機会にぜひご来場ください。

みなとガーデン
「未来のバラ園」
(山下公園)



里山ガーデン
「10,000㎡の花畑」



©ITOON / GN2017

編集後記

皆様のご協力で、「はま農楽だより43号」が出来上がりました。例年同様、1年間を振り返って、イベントや各班の活動を報告して頂きました。今年度は、代表・副代表不在で、運営委員、サポート委員で会を運営しました。秋の視察研修会、ふれあい祭り、収穫感謝祭などのイベントも楽しくやる事が出来ました。これは皆さまのご支持とご理解を頂けたことと考えますが運営委員不足で会の運営が危機状態にあります。

募集しておりますので応募をお願いします。

(広報担当 三沢)

編集・発行



横浜農と緑の会

はま農楽

〒240-0025 保土ヶ谷区狩場町213

横浜市環境活動支援センター内

TEL 711-0748

FAX 711-0748

E-mail: gqrx4zfd@bird.ocn.ne.jp

HP: http://hamanora.sakura.ne.jp/in dex_hamanora.html